

平成 22 年度科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」プログラム

公募内容：

科学技術外交の強化の一環として、わが国の高い研究ポテンシャルを活用しつつ互恵的な国際共同研究をアジア・アフリカ諸国等と実施することを通じて、我が国のリーダーシップを発揮した国際的な科学技術コミュニティを構築するとともに、我が国とアジア・アフリカ諸国等の政府レベルでの協力関係の強化・構築を目指す。

提案課題名：「小児感染症発症宿主因子探索システムの開発」

研究代表者：長崎大学熱帯医学研究所 教授 安波道郎

提案課題概要：

ベトナム中部カンホアの住民2000人の出生コホートを対象に、種々の感染症について、その発症や重症度への影響が想定される遺伝子約200座位のゲノム多型遺伝子型を明らかにする。同コホートの満2歳検診を行なって、2年間の感染症発症歴と関連するゲノム多型を選抜する。選抜されたゲノム多型の遺伝子型で個人の感染抵抗性をどの程度予測可能であるかを評価し、個別化予防医療への道を拓く。

採択コメント：

本提案は、複数のベトナム研究機関との共同により、住民の健康管理に当たる病院に限られコホート解析に好適な条件を有するベトナム中部カンホア地域において、従来からの研究実績に基づいて樹立された2,000人規模の出生コホートを対象に、200ほどの座位に関する宿主のゲノム多型解析を行い、感染症重症化に関する遺伝マーカーとしての有効性について検証しようとする計画である。既に相手国機関との臨床疫学研究の実績があり、研究に適したフィールドと考えられる同地域において、コホートもすでに樹立されていることから、期間内に検討が実施され、目的とする因子の探索につながる成果が期待される。

なお、本課題は相手国のニーズに基づいた実施内容であるものの、海外で実施される共同研究である。倫理面、法制面での問題や社会的影響に関連する先行研究が日本国内で未だ十分に行われていない状況であることから、データの管理や結果発表なども含め、倫理面や社会的影響等への配慮が十分に必要であることに留意しつつ、研究を推進することが必要である。

文部科学省振興調整費 関連ホームページ

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/05/1294088.htm